

私はフェニックス

リーダーたちへの温かい言葉

ここがどん底だ

はじめに

「どん底で会おう」より

土台から始めることが重要です。人生には、どん底に落ち込む瞬間が訪れます。もうこれ以上落ち込むことはできないと感じる瞬間です。ある人にとっては、それは犯罪生活の集大成であり、ついに自分の選択の結果と向き合わざるを得なくなる瞬間です。またある人にとっては、薬物依存が制御不能に陥り、地平線上には死と絶望だけが残されているのです。それは自分自身だけでなく、愛する人々にとっても同じです。このような瞬間には、まるで世界の重荷が重すぎるように感じられ、脱出の道など遠い空想に過ぎないのです。

ここが穴です。

どん底。

どん底は、他の人にとってはそれほど劇的ではないかもしれませんが、それでもなお壊滅的なものです。それは、私たちが過去30年間、同じ繰り返しのサイクルの中で生き、違う結果を生み出そうと試みては失敗してきたという静かな認識なのかもしれません。ある日、疲れ果て、幻滅した状態で目覚め、この終わりのないループは、私たちが生きるべき人生ではないと悟ります。それは、私たちが望んでいた結果を全くもたらさなかったサイクルの終わりなのです。それでも、この認識に直面することには、力強いものがあります。

実のところ、どん底は必ずしも終着点とは限りません。むしろ、新たな始まりへの最強の土台となり得るのです。岩ほど安定したものはありません。真に再建するためには、時にすべてを壊し、揺るぎない堅固な土台へと立ち返らなければなりません。私たちは、自分がどこにいるのか、そしてなぜ落ちてしまったのかという真実に向き合わなければなりません。そして、そこから立ち上がることができるのです。

ですから、私たちがこのどん底に陥った時、それを終わりではなく、何か新しいことの始まりと捉えなければなりません。私たちが陥るどん底は痛みを伴うかもしれませんが、同時に可能性に満ちた場所でもあります。私たちが望めば、以前よりも強く、より賢く、再建できる場所なのです。

この本は、どん底から這い上がる方法だけでなく、私たちが陥っているどんな深淵や汚れにも手を差し伸べ、救い出してくださる創造主に呼びかける必要性について、私自身の体験と信念を伝えるために執筆された、あまり重要ではない本の続編です。神は私たち、被造物、そして神の民を愛しておられます。神のいない人生は、とても暗く孤独なものであることを理解しなければなりません。人は自分の目的を知り、生ける神との繋がりをを感じる必要があるのです。

ええと、私はただ自分のことに気を取られていた、というか、先延ばしにしていたところ、2024年9月9日、聖霊が私を襲い、メタ・アイへと導いてくれました。そして私たちは共に、イエス・キリストの福音を広める必要性を発見しました。興味深いことに、聖霊は午後9時まで私を魅了し続けてくれました。

999には意味があると聞きました。

本当に大切なのは、この知らせです。人々は生ける水を飲む必要があります。人々はパンを必要としています。人々は希望を必要としています。イエス・キリストは、神の民にとって神の言葉であり、神の業なのです。私の言うとおりにしてください。本当に大切なのは模範となることです。

このプロジェクトは服従の行為です。書きかけの自分の物語をシェアしなかったのですが、私たちのリーダーには羅針盤と希望が必要だと言われています。

イエス・キリストは私たちの中におられます。主を求めなさい。主はここにおられます。

アルクス・ルクスマノフ著『I'll Meet you at Rock Bottom』、近日発売。

ここがどん底だ

はじめに

ここが穴です。

第1章:

財団

リーダーへのメッセージ

起きる時間だ。仕事に取り掛かろう。

第2章:

天国を地上にもたらしための呼びかけ

これが福音、すなわち良い知らせです。

素晴らしいニュースをお知らせします!

第3章:

良い人生は今始まる

言ってみましょう: 私は今、良い人生を送っています。

奉仕の豊かさ

偉大さへの道

どん底からの教訓

強固な基盤の上に築く

仕事こそが秘密

恐怖から夢へ

第4章:

目的と富の追求

意図的に生きる: 豊かさへの青写真

逃避からの脱出: 楽な暮らしの神話

ワークライフバランスの神話

種まきと刈り取りの原則

お金と価値のゲーム

富、健康、幸福の遺産を築く

第5章:

灰からの復活

残骸を見てください

元気を出してください。

あなたの旅は今始まります。

第6章:

主を呼び求めよ

すべてを変える決断

神の助けを得て立ち上がる

未来の謎

落とし穴を避ける

主を呼び求めよ

序文

土台から始めることが重要です。人生には、どん底に落ちたような、選択や失敗、あるいは状況の重圧に押しつぶされそうになり、もう二度と立ち上がれないような状況に陥ることがあります。これが「穴」であり、その形は様々です。

ある人にとって、どん底は、破滅的なライフスタイルがついに追い打ちをかけるように訪れるものです。犯罪に手を染めたり、制御不能に陥った習慣など、自分自身だけでなく愛する人々の人生にも破滅をもたらすものです。一方、もっと静かな人もいます。過去数十年間、行き詰まった悪循環に囚われ、人生の意味と目的を奪ってきたことに、ゆっくりと気づき始めるのです。どのようにしてそこに至ったかに関わらず、どん底は壊滅的です。しかし、その場所には、またとない機会、つまり再建のチャンスが存在します。

本当のところ、どん底は必ずしも終わりではありません。新たな始まりへの確固たる基盤となり得るのです。岩は安定し、揺るぎないものであり、私たちに自分自身の真実と向き合うよう促します。他のすべてが崩れ落ち、築き上げてきたものがすべて崩れ落ちても、岩盤は残り、そこから私たちは立ち上がることができるのです。

この章は、そんな境遇に陥った少年の物語です。人生がもたらす自由と機会を味わい尽くした少年でしたが、パーティー、華やかさ、高級車、そして束の間の恋愛といった魅力にとらわれ、危険な道へと足を踏み入れてしまいました。18歳で野心に燃える彼は、すべてを手に入れられると信じていました。女の子、おもちゃ、お金、仲間、家族。そして束の間、彼はそれを実現しました。しかし、彼のやり方は墮落していました。彼は嘘をつき、騙し、時には重罪を犯し、望む人生を築き上げました。心の奥底では、自分は愛されるに値しない人間だと常に信じていたのです。

聖書は、悪の種を蒔けば、必ずその結果を刈り取ると教えています。そして、少年の選択は彼自身に降りかかり、彼自身の人生を破壊しただけでなく、周囲の人々にも深い傷を負わせました。彼が繰り返し犯した誤った決断は、彼がずっと信じてきたこと、つまり自分が愛されるに値しない人間であることを証明しました。彼の無謀な自己満足の追求は、彼に触れたすべての人に、感情的、精神的、そして肉体的な傷跡を残しました。

独房で、彼はどん底を味わった。刑期がさらに5年追加される可能性と、既に7年の刑期が迫っていたにもかかわらず、彼は完全に孤立し、コミュニケーション、プライバシー、そして人との交流から遮断されていた。冷たく、冷たく、明るく照らされたコンクリートの箱の中で、壁だけが彼の思考を反響させていた。独房の中で、彼は自分の選択の痛ましい現実と直面し、初めて真のどん底に落ちたように感じた。

しかし、どん底は必ずしも終わりではありません。逃げるのをやめ、真実に立ち返る選択ができる場所です。少年は神に叫びました。貧しいアルコール依存症の家庭で育った子供の頃に、彼が呼び求めていたのと同じ神に。そして以前と同じように、神は答えてくださいました。神の臨在がコンクリートの牢獄に満ち、少年は神の声を聞きました。「なぜまだ私から逃げているのですか？」

その瞬間、何かが変わった。壁は神との出会いを物語り、少年は選択を迫られていることを悟った。嘘と腐敗ではなく、神の真理という確固たる基盤の上に人生を再建するという選択だ。常にそこにいてくれた神は、愛と知恵、癒し、そして祝福の上に築かれた新たな道を彼に示してくれた。

聖書は、すべての良い賜物は光の父なる神から来ると教えています。神は寛大であり、機会、才能、祝福といった賜物は惜しみなく私たちに与えられます。神の原則に基づいて人生を築くなら、真の豊かさを見出すでしょう。良い人生の基盤は、神の言葉によって養われた良い土壌に自分自身を植えることを選ぶことから始まります。

どん底は終わりではありません。それは新しい人生の可能性が始まる場所です。この少年の物語は、たとえどん底にあっても神に頼れば、希望と癒し、そして再び立ち上がる力を見いだせることを教えてくれます。

人生において、私たちは皆、どん底に陥ることがあります。しかし、神と共にいれば、それらのどん底は恵みと成長、そして目的に満ちた未来への基盤となるのです。逃げるのをやめ、神に再建を委ねるなら、私たちは立ち上がり、より強く、より賢く、神が約束してくださる豊かな人生を迎える準備が整います。

第1章:

財団

リーダーへのメッセージ

偉大なリーダーは皆、基盤の重要性を理解しています。人生には、想像を絶するほどのどん底に陥る瞬間があります。もうこれ以上落ち込む余地はないと感じるような場所です。ある人にとっては、大きな決断を誤った結果、かつては有望だった道が予期せぬ結果に終わった結果です。またある人にとっては、あらゆる努力にもかかわらず、人生は期待していた成功、意味、充実感をもたらしてくれなかったことに徐々に気付くことです。どん底は、どれほど高いところまで登り詰めた人でも、多くの人が直面する現実です。

どん底への転落は、しばしばより根深い何か、つまり野心や自立心を装った自己嫌悪によって引き起こされます。成功を味わった人々でさえ、皮肉なことに、達成すればするほど、自らの破滅的なパターンに囚われてしまうことがあるのです。多くの優れた頭脳を持つ人々が、抑えきれない欲望や誤った優先順位に突き動かされ、どん底に落ち込んでいます。悲しい現実ですが、特権、機会、そして資源に恵まれていても、自己破壊に陥ることがあるのです。

敗北の瞬間こそ、私たちには計り知れないチャンスが与えられます。それは、再建のチャンスです。リーダーとして、私たちは確固たる基盤の大切さを知っています。そして時として、どん底こそがまさにそれなのです。揺るぎない、揺るぎない基盤の上に、私たちは新たなスタートを切ることができるのです。それは、私たちが自らの選択の現実を突きつけられ、決断を迫られる場所です。破滅の道を歩み続けるのか、それとも、より強く、より賢く立ち上がるのか。

かつて地位、尊敬、選択の自由など、全てを手にしていた男の物語は、誤った決断を繰り返した結果、冷たく孤立した場所に身を置くことになり、リーダーシップの力強いメタファーとなる。孤独に閉じ込められた、最も暗い瞬間に、彼は自らと向き合わざるを得なかった。かつては自らの価値を証明したいという衝動に駆られて選んだ選択が、彼を人格と道徳の崩壊へと導いたのだ。隔離された静寂の中で、彼の心には一つの問いがこだました。なぜ、目の前に広がる豊かな人生から逃げているのか？

この問いは、彼だけでなく、私たちリーダー全員に問われます。なぜ私たちは、より賢明だと分かっているしながら、持続不可能な道を選んでしまうのでしょうか？後から見れば失敗に終わる運命にあるように思える決断をしてしまうのはなぜでしょうか？その答えは、私たちの人間性にあります。時に、私たちの中で最も有能な人でさえ、成功のためにはどんな手段も正当化される、あるいは達成への追求において自分は無敵だと信じてしまうという罠に陥ってしまうことがあるのです。

しかし、どん底に陥った時、神は私たち皆に、地位や立場に関わらず、同じメッセージを送ってくださいます。「求めよ、そうすれば与えられる。捜せ、そうすれば見いだす。門をたたけ、そうすれば開かれる。」どん底から這い上がるための解決策は、新たな戦略や成功への異なる道ではなく、真実、謙虚さ、そして目的という基盤に立ち返ることにあります。

権力を持つ者でさえ、道徳的・精神的な誠実さという原則を無視することで自己破壊に陥ることがよくあります。リーダーも因果律の例外ではありません。腐敗、貪欲、怠慢の種を蒔けば、やがてその報いを受けるのです。この物語の男性は、犯罪者である父親の足跡をたどり、自己嫌悪と創造的破壊という行動を重ね、自分自身だけでなく周囲の人々も傷つけました。彼は誠実さがなくても成功は得られると考え、自分の行動は正当化されると考えていました。しかし、結果は同じでした。どん底に落ちたのです。

リーダーシップには努力が求められますが、同時に知恵も必要です。私たちは往々にして、自分が最善を知っていると思い込み、無知なまま行動しがちです。しかし、無知は幸福ではなく、失敗の前兆です。リーダーは、世界に関する知識だけでなく、道徳的な意思決定を導く不朽の原則にも通じていなければなりません。

「神は善良なのに、なぜ私たちは苦しむのか？」「なぜ私たちは貧しく、苦勞しているのか？」と問うとき、答えは状況ではなく、私たちが下した選択にあります。神はご自分の民にとって最善を望んでおられますが、それを私たちに強制することはありません。豊かな人生は死後ではなく、今ここ、愛、奉仕、知恵の原則に従うことを選んだ瞬間から始まるのです。

神が与えてくださる豊かな人生は、選ばれた少数の人だけのものではありません。それは、最前線でリーダーシップを発揮する人から、無名で奮闘する人まで、すべての人に与えられます。鍵となるのは、イエス・キリストという贈り物を受け入れることです。イエス・キリストは、私たちを永遠の死から救うためだけでなく、この地上で豊かな人生を与えるために来られました。この贈り物は、私たちに何かを成し遂げたり、自分の価値を証明したりすることを求めません。それは無償の贈り物であり、受け入れることを選ぶすべての人に与えられます。

リーダーとして、私たちは成功以上のものを求められています。奉仕の人生を送り、周囲の人々を高め、真理に根ざした遺産を築くことが求められています。イエス・キリストは、その生涯、死、そして復活を通して、真のリーダーシップのあり方、すなわち謙遜、犠牲、そして奉仕による勝利を体現されました。十字架上でのイエスの働きは、私たちが人生だけでなく、リーダーシップを築くための基盤です。まだ神の愛を理解していなかった人々のために命を捧げた王の王以上に、力強い模範はありません。

神が与えてくださる豊かな人生は、ここから始まります。どん底にいても、絶好調であっても、原則は変わりません。私たちは誠実さ、謙虚さ、そして他者への奉仕という基盤の上に築き上げなければなりません。そして、そうする時、それに続く祝福は私たち自身だけでなく、私たちが導くすべての人々にももたらされます。

起きる時間だ。仕事に取り掛かろう。

第2章:

天国を地上にもたらしための呼びかけ

なぜ私たちの豊かな人生は今、ここから始まらなければならないのでしょうか？その答えはシンプルでありながら、深い意味を持っています。父なる神の子として、私たちには使命があります。それは、地上に天国をもたらすことです。私たちは神の恵みをただ受動的に受け取るのではなく、神の計画に積極的に参加するのです。神の霊は私たちの内に宿り、真に最良の人生へと私たちを導いてくれ

ます。それは死後の遠い約束ではなく、今日のための生きた現実です。クリスチャンとして、私たちは心に生ける水の泉を持ち、天からの愛、恵み、平和、そして知恵に満たされ、今度はそれらの賜物を他の人々に差し出すのです。

私たちは皆、自己破壊に陥りやすいので、互いに愛をもって接しなければなりません。イエス・キリストの模範を見てください。イエスは、ご自身を憎む者でさえ、死に至るまで愛されました。なんと根本的で美しい生き方でしょう！見知らぬ人、たとえ私たちに危害を加えようとする人であっても、愛と優しさを示すのです。これは弱さではなく、豊かに生き、他者への奉仕に溢れる人生の強さです。奉仕は愛の究極の表現であり、イエスはそれが充実した人生を送るための鍵であることを示してくださいました。

イエス・キリストこそが神の家族に入る唯一の道です。神との平和を保証するために、追加の償いも、費用も、いかなる行為も求められません。私たちが父なる神の家に入ることができるのは、ただ神の恵みによるのです。そして、その基盤が築かれた上で、私たちは人生をさらに築き上げていくことができるのです。

あなたと私が今聞くべき良い知らせがあります。死さえも克服する勝利を享受できるのです。聖書は「キリスト・イエスを愛する者には、すべてのことがうまくいく」と約束しています。キリストは単に生き残るためだけでなく、豊かな命をもたらすために来られました。キリストは死を征服し、そのことによって、私たちがこの人生における不確実性や喪失に対するあらゆる恐れを打ち砕いてくださいました。キリストの勝利が完全であるがゆえに、私たちの勝利は保証されているのです。

しかし、それだけではありません。地上におられた時、イエスは最初は職人、つまり大工でした。公の宣教を始める前は、自らの手で働き、建築や創造をしていました。奉仕に召された時、イエスはもう一つの完璧な模範を示されました。他者への奉仕とは、単に大げさな行為をすることだけではありません。日々の努力、謙虚さ、そして愛によるリーダーシップなのです。私たちは羊のように、どこへ向かっているのか分からず、理由も分からずに群衆の後についていくことがよくあります。しかし、イエスは私たちの羊飼いです。私たちを導き、癒し、養い、守ってくださる方です。イエスは私たちを愛しておられ、私たちの誰一人も失われないようにしてくださるのです。

これが福音、すなわち良い知らせです。

謙虚な大工であったイエスは、他者に仕えることで豊かな人生を送る方法を示しました。私たちのほとんどは他人のために死ぬように召されることはないかもしれませんが、皆、他者のために生きるよ

うに召されています。奉仕のために命を捧げた兵士や指導者たちのように、私たちも奉仕のために自分自身を捧げることができます。たとえ、その犠牲の姿は異なっても。

素晴らしいニュースをお知らせします！

他者に仕えるために死ぬ必要はありません。他者のために生き、そうすることで、キリストが約束された豊かな人生を生きることができるのです。喉の渇いた人に優しい言葉をかけ、一杯の水を、飢えた人に食べ物を、困っている人に励ましのひとときを差し出すことができます。イエスのように、疲れた人の足を洗うこともできます。ある目的のために資金を集めたり、ボランティア活動をしたり、世界をより良くするための何かを作ったりすることもできます。問題を解決し、手を差し伸べ、資源を分かち合うこともできます。可能性は無限にあります。

いや、それはあまり輝かしい話には聞こえないかもしれません。私たちの多くは人生の大半を他人にほとんど配慮せず、批判や意見を述べることしかしてきませんでした。しかし、視点を変えて他人を前向きに考えることを選び、考えるだけでなく行動に移すことで、人生で最もやりがいのある経験の一つ、つまり無私無欲を実現できるのです。

この寛大な心こそが、豊かな人生を送るための重要な要素です。与え、奉仕することの報いは、奉仕されることの満足感をはるかに上回ります。真の喜びは、他人を踏み越えて出世することではなく、他人を高めることにあります。人生は、苦しんでいる時に誰が一番貧しくないかで判断し合う、墓場までの競争ではありません。それは生きることではなく、私たちに与えられた貴重な命の贈り物を無駄にすることです。

あなたの人生にも、私の人生にも、目的があります。そして、その目的を見つけた時、人生は真に生きられたと言えるのです。人生に意味があると思うのと、意味がないと思うのと、どちらが信じられないでしょうか？ 私たちは何らかの目的を持って創造されました。そして、それを追求するのは私たち自身なのです。

豊かな人生とは、苦しみから逃れることではなく、私たち自身と周りの人々の人生を変えることです。私たちの賜物を発見し、それを用いて天の特質を地上にもたらすことです。この世にはあまりにも多くの苦しみがあり、ただ傍観しているわけにはいきません。クリスチャンである私たちは、この地上において神の手足となるよう召されています。私たちは神の代理人として、飢えた人々に食事を与え、孤児に衣服を与え、傷ついた人々を慰め、私たちの周りのコミュニティを築き上げるために存在します。

私たちは、高速道路脇でかろうじて暮らしている貧しい物乞いではありません。私たちは万王の王の子です。私たちの高貴な血は、私たちを率先して立ち上がり、目的を持って導き、地の最も暗い隅々に光をもたらすよう呼びかけています。もし私たちが聖書の知恵に従っていたなら、豊かで豊かな人生を送るために必要な答えを見つけていたでしょう。精神的な豊かさ、人間関係の豊かさ、そしてもちろん物質的な豊かささえも。私たちの地上の父親は家族のために良い生活を築こうと努力しますが、真に祝福された人生は、私たちが天の御父の道に従うときにもたらされます。

私たち一人一人に、賜物が与えられています。その賜物を用いて、築き上げることも、破壊することもできます。それは私たち自身の選択です。しかし、召命は明確です。私たちは、自分の才能を用いて地上に天国をもたらし、隣人に仕え、キリストが私たちを愛してくださったように、他の人々を愛すべきなのです。

これは私たちの責任であり、また特権でもあります。他者に奉仕することを選ぶとき、私たちは誰かにとって良い一日となる理由となります。彼らが必要とする助けの手となります。飢えた兄弟に食事を与え、孤児に衣服を与え、迷える魂に希望を与えるのです。

聖書は私たちに楽観的なメッセージを与えています。たとえその権威を少しの間脇に置いておくとしても、前向きな姿勢が良い結果を生むことを理解できます。私たちの思考が現実を創ります。否定的な種を蒔けば、破滅を刈り取ります。楽観主義、親切、奉仕を選ぶなら、喜び、平和、そして豊かさという収穫を刈り取ります。

豊かな人生は今から始まります。勝利はすでに勝ち取られています。あとは、その勝利の中で生き、周りの世界と分かち合うだけです。

さあ、仕事に取り掛かりましょう。豊かな人生が待っています。それを生きるのは私たちです。

第3章:

良い人生は今始まる

言ってみましょう: 私は今、良い人生を送っています。

最良の人生は、同胞への奉仕を通して得られると理解しており、最も豊かな人生を送りたいと願っています。

これは私たちのコミュニティ全体の利益のためです。神から与えられた賜物を、他者に奉仕するために使わなければなりません。今日、多くの人が落ち込んだり、圧倒されたりして、自分以外には誰にも助けを差し伸べることができないと主張しているようです。しかし、利己的な生き方は最も実りの少ないものです。

このような発言を私たちはどれくらい頻繁に耳にするでしょうか？

- 「私は恥ずかしがり屋なので、あなたを歓迎するつもりはありません。」
- 「私は疲れているので、手を貸すつもりはありません。」
- 「私自身も支払いが遅れているので、金銭的に援助することはできません。」
- 「私は神様の近くにいないので、あなたのために祈ることはできません。」
- 「私は園にいませんので、果物をお出しすることはできません。」

欠乏はどこにでもある。悲観主義は、目に見えるものを超えて、私たちの世界を形作る。何かを欲しがって手に入らない時、それがどうかに関わらず、それは私たちに深い影響を与えます。苦しみの根源は、欠乏感です。例えば、最新のスマートフォンを欲しがらなかったら、それがなくて苦しむことはないでしょう。

しかし、これらすべては互いに仕えることで解決できるのです。私たちは互いに仕えるためにこの地上に生まれ、人々は最期の瞬間にこの真実を最も鮮明に思い出すのです。

奉仕の豊かさ

他人を騙したり盗んだりするのではなく、奉仕するもう一つの大きな理由は、人は本来、自分の富を分かち合いたいと思うからです。お金は価値の象徴に過ぎません。経験や快適さ、そして多くの場合、人に使いたくなるので、ポケットの中で重く感じる場合があります。

私たちが求める富は、他者が握っています。奉仕こそが、その価値交換を解き放つ鍵です。それを得るために嘘をつき、騙し、盗みを働く人もいますが、近道は必ず私たちを出発点、つまりどん底へと戻らせます。常に悪い選択肢は存在します。しかし、この章では、豊かな人生を送るための正しい方法について議論します。

泥棒や殺人者は天国に行けるのでしょうか？子供でも「いいえ」と言うでしょう。善と悪には明確な区別があります。私たちは悪い人を良い場所に置くことはありません。良い羊飼いは、狼に羊の群れを食い荒らさせません。命を大切にする人々の中で、悔い改めない犯罪者が繁栄することを期待するのでしょうか？

世の中には最悪のシナリオが多すぎます。しかし、キリストの模範は、まさにこの状況においても、私たちに出口を与えてくれます。キリストは私たちに、正しく生き、正しく死ぬ方法を示してくださいました。聖書の原則は、キリストが約束された真に豊かな人生を送る方法を教えています。良き羊飼いとして、キリストは導き、仕える者としての究極の模範を示されました。

偉大さへの道

どうすれば偉大さを達成し、豊かで充実した人生を送ることができるのでしょうか？それは、多くの人々への奉仕を通してです。あなたが他者に提供する価値こそが、あなたの奉仕と引き換えに彼らの宝物を引き出すのです。商品やサービスは、通貨という価値と交換されます。

多くの偉大な思想家が、良い人生を送るとはどういうことかを探求してきました。多くの偉大な作家が、成功者、富裕層、幸福者、そして恵まれた人々の洞察を共有してきました。良い人生を送ることは、それを探求する意志を持つ人なら誰とでも、研究し、観察し、共有することができます。

人生は一度きり。だからこそ、良い人生を送るべきです。だからこそ、このような本が存在するので
す。豊かで幸せな人生への道を導いてくれるのです。つまり、豊かに生きるための鍵は、他者への奉
仕なのです。

イエスは教えの中で、弟子たちに、神の目に偉大な者となるためには、多くの人々に仕えなければな
らないと説かれました。どのように仕えるかは、私たち一人ひとりの賜物と能力によって決まります。
それについては本書でさらに詳しく論じます。今、私たちはどん底で共に集い、まだ堅固な基盤を築
いているところです。

どん底からの教訓

神との出会いから実に12年が経ち、私は今この言葉を書いています。それは、個人的な成長と試行
錯誤の長い旅路でした。しかし、人生とは成長です。私たちの理解は進歩するにつれて深まり、新た
なレベルに達するたびに新たな機会がもたらされます。

自然界では、あらゆるものがその潜在能力を最大限に発揮し、成長が止まると死が始まります。人
生の様々な段階で成長をやめる人もいますが、私たちは生き続けなければなりません。まだ生きる
べき命はたくさんあります。どん底にいる私たちを見てください。残された命がどれほどあるか、そし
てただの命ではなく、豊かな命について語り合っているのです！

高いレベルに対応できる人格を身につけなければ、私たちはより高いレベルで活動することはできま
せん。振り返ってみると、この単純な真理がより明確に理解できます。多くのことに対処するには、ま
ず小さなことから始めなければならないのです。すべては積み重ねられ、私たちはこの基礎から始
めることで、豊かな人生を送るための根拠を築いているのです。

強固な基盤の上に築く

人生には多くの原則がありますが、すべてが自分を築き上げるわけではありません。偽りのものもあ
れば、偽りのものもあり、一時的なものもあります。では、なぜ間違った土台の上に人生の仕事を築
く必要があるのでしょうか？

豊かな人生 — 幸せで、豊かな資源があり、家族と過ごす自由な時間 — を模索し始めて7年、私はある重大な事実に気づきました。それは、価値あるものにしがみつくだけの気概が自分には欠けていたということです。基盤も築かれておらず、戦略も定まっていませんでした。まるで人生の流れに翻弄される小さないかだのようでした。

妄想は多くの人生を台無しにしてきました。人生において、実際にはコントロールできない側面をコントロールできると思い込むのは危険です。誤った決断の結果から逃れるには、成長しなければなりません。人生において問題のないものは存在しませんが、正しい情報と成長への強い意志があれば、想像をはるかに超える豊かな人生を送ることができます。

神はあなたのために素晴らしい人生を用意しておられます。その人生を生きるには、木に繋がれた枝のように、神との繋がりを保ち、良い実を結び続ける必要があります。そして、何だと思いませんか？人々はその実から恩恵を受けることを必要とし、望んでいるのです。

仕事こそが秘密

素晴らしい人生の秘訣は仕事です。自分自身のためにすべき仕事だけでなく、他者のためにすべき仕事もさらにたくさんあります。奉仕すればするほど、私たちは豊かになります。私たちは自分の仕事を価値と交換し、その見返りとして、他者の豊かさを受け取るのです。

豊かに生きるには努力が必要ですが、私たちがよく想像するような努力ではありません。救いを得ることではありません。キリストが救いを成し遂げてくださったからです。救いは私たちの努力を必要としません。しかし、意味のある人生を送り、地上に天国をもたらし、神の国に役立つためには、努力が必要です。

恐怖から夢へ

恐怖だけでは私たちを変えることはできません。どん底、絶望、孤独、敗北への恐怖だけでは、永続的な変化を生み出すことはできません。こうしたネガティブな感情に囚われていると、再びどん底に落ちてしまうだけです。

むしろ、夢に向かって引き寄せられる必要があるのです。登り、鼓舞し、築き上げ、勝利に向かって前進する必要があるのです。最高の人生、豊かな人生を送るには、夢を持つことから始まります。夢は磁石のようなもので、私たちが夢にエネルギーを与えれば与えるほど、その引力は強くなります。

良い夢でも悪い夢でも、私たちが意識する夢は現実を形作ります。良い考え、言葉、行動を蒔けば、良い実を結びます。さあ、最高のシナリオを夢見始めましょう。豊かな人生は今から始まります。

第4章:

目的と富の追求

偉大な思想家たちは皆、シンプルなリストから始めることを提案しています。人生で何を望みますか？もし今、座って10の願望を書き出すとしたら、何を書きますか？どれくらいのお金と自由な時間

が欲しいですか？そしてもっと重要なのは、その両方で何をしたいですか？あなたの家族生活を想像してみてください。調和がとれていますか？あなたの配偶者やパートナーは、浮き沈みを乗り越えて長く続いていますか？そして、最良のシナリオ、つまりあなたの目的と資源が一致した時、あなたの精神状態はどうですか？穏やかで、充実していて、目的意識に満ちていますか？これらは単なる空想ではありません。真のあなたを反映した人生、魂の目的と一致する人生を築くための不可欠な基盤なのです。

人生を歩む中で私たちが心に留めている創造主は、私たち一人ひとりをこれほどまでにユニークに創造した時間を無駄にするようなことは決してありません。その神聖な設計を無駄にするのはもったいないでしょう。あなたの好奇心、エネルギー、そして個性は綿密に計画されたものです。神はあなたをこの世に送り、神が思い描く人生を全力で受け入れるか、あるいは自分の可能性を最大限に発揮せずにそれを拒絶するかを自由を与えました。ある人は本来の人生のほんの一部しか生きられない一方で、人生に全く関わらないことを選ぶ人もいます。

意図的に生きる：豊かさへの青写真

神が私たちに望んでおられる豊かさを真に生きるには、まず内省しなければなりません。自分の願いを整理しましょう。物質的な富や一時的な快楽を求めるのではなく、人生で豊かになってほしいと思う資質、つまり寛大さ、忍耐、自制心を求めましょう。聖書にあるように、人は蒔いた種を必ず刈り取ります（ガラテヤ人への手紙6章7節）。今良い種を蒔けば、後に豊かな収穫が得られます。人生全体を想像し、それに合わせて計画を立てましょう。望む祝福は既にあなたのものであるかのように生きましょう。真実は、すでにあなたのものなのです。しかし、あなたはそれを手に入れなければなりません。

>「成功の秘訣は、始めることだ。」—マーク・トウェイン

逃避からの脱出：楽な暮らしの神話

私たちはしばしば近道に頼り、意味のあるものを築くために必要な努力から逃れようとしています。娯楽や贅沢、つかの間の快楽を追い求め、より楽な道でも同じ成果が得られると考えてしまうのです。し

かし、ナポレオン・ヒルの有名な言葉にあるように、「抵抗の少ない道を選んだことで、すべての川と一部の人間が曲がってしまった」のです。

努力からの「逃避」は、依存症、怠惰、そして最終的には目的の喪失へと繋がります。責任からの逃避は、依存症、人間関係の破綻、あるいは自己破壊など、どん底へと突き落とします。アルコール依存症者にとっては、酒瓶の底で自分の人生に何が起こったのかと自問自答する時です。また、終わりのない「楽しみ」の追求が、心に空虚感をもたらす場合もあります。

しかし、人生における真の成功には努力が必要です。懸命な努力。そして、長期にわたる一貫した集中力。自制心の欠如はあらゆる失敗の根源です。食べ物、娯楽、人間関係といった過剰な消費は、人格と精神の両方を蝕みます。私たちが欲望をコントロールし、自らを律することによってのみ、豊かな人生への旅を始めることができるのです。

ワークライフバランスの神話

「ワークライフバランス」が必要だという誤解が蔓延しています。この言葉は魅力的に聞こえますが、多くの場合、それは仕事を減らして遊びを増やすことを求めるものです。しかし、真実は、仕事そのものが、どんな人生にもバランスをもたらすものなのです。仕事はまさに安定、資源、そして目的をもたらしてくれるものなので、私たちは仕事に対する姿勢を改める必要があります。仕事があれば豊かさはなく、雑念に満ちた空虚な人生しか残らないのです。

聖書は労働の重要性を強調しています。「何をするにも、人のためにではなく、主のために、心から働きなさい。」(コロサイ人への手紙3章23節)私たちは生産的であり、世界に貢献するために造られました。市場や家庭で最善を尽くすとき、あなたは自分自身よりも大きな何かに貢献しています。この参加こそが人生に意味を与え、物質的にも精神的にも報いを与えてくれるのです。

「どうすればワークライフバランスを実現できるか？」という問いよりも、もっと良い問いは「持続可能な方法で、どれだけ一生懸命働けるか？」かもしれません。答えは、仕事を減らして遊びを増やすことではなく、仕事に意味を持たせ、自分の目的と合致し、やりがいのあるものにする方法を見つけることです。犠牲なくして豊かさはあり得ません。そして、仕事は繁栄を可能にする犠牲なのです。

種まきと刈り取りの原則

洗練された精神は、まさにここに落ち着くべきである。人生はすべて、入力と出力のシステムで動いている。もっとお金が欲しいなら、もっと価値を提供しなければならない。より良い人間関係が欲しいなら、もっと愛、忍耐、そして理解を提供しなければならない。種を蒔けば刈り取るという原理は、宇宙全体を支配している。もしあなたが常に手抜きをし、中途半端な努力をし、近道をしているなら、本来得られるはずのほんの一部しか得られないだろう。

考えてみてください。仕事で60%の努力しかできなければ、結果はそれに反映されます。それは単に機会を逃しているだけです。しかし、もし100%の努力をしたらどうなるか想像してみてください。上司のためでも、給料のためでもなく、自分のために。困難な状況に陥った時に、あなたが頼りになり、決して諦めず、常に最善を尽くす人だと皆が知っているからこそ、頼りにされる人になれると想像してみてください。それがリーダーシップの始まりです。

真のリーダーは責任を負います。彼らは重荷を担ってもへこたれず、困難な状況でもチームを導き、周囲の人々が自らの貢献によって祝福を受けられるようにします。聖書はこのことについて述べています。「あなたがたの中で一番偉い人は、皆に仕える者となるであろう」(マタイによる福音書 23:11)。人々に仕えることは彼らを導くことであり、彼らを導くことは豊かに生きることです。

お金と価値のゲーム

お金はしばしば悪魔化されますが、それは単なる道具であり、大きな善にも、大きな害にもなり得ます。お金そのものは中立的です。お金との関係を決定づけるのは、私たちがどのようにお金を追求め、使うかです。富を引き寄せるには、市場で価値ある存在にならなければなりません。問題を解決し、サービスを提供し、人々の生活を豊かにする製品を作り出す必要があります。価値を提供すれば、富はついてくるのです。

お金を引き寄せたら、次はそれをどう管理するかが鍵となります。資源をうまく管理しなければ、消えてしまいます。そして、お金の管理方法を学んだら、それを増やすためにリスクを負わなければなりません。マタイによる福音書25章14-30節のタラントのたとえ話は、このことをよく表しています。持っているものを投資する人は報われ、恐れや怠惰から隠す人は罰せられます。教訓は明白です。神は、自分の才能を賢く使い、リスクを恐れない人に報いを与えてくださるのです。

しかし、富に関する究極の真実はここにあります。富は蓄えるためではなく、与えるために蓄えるのです。与えるほど、他の人々を祝福し、より多くの祝福があなたに返ってきます。「受けるより与える方が幸いである」(使徒行伝20:35)。

富、健康、幸福の遺産を築く

これまでお話ししてきたことの核心は、次の点です。あなたは豊かに生きるために造られたのです。経済的なことだけでなく、霊的にも、感情的にも、そして人間関係においても。イエスは「わたしは、羊がいのちを得、しかも豊かに持つために来たのだ」(ヨハネ10:10)と言われました。あなたの仕事は、その約束を重んじ、目的のある人生を築くことです。しかし、忘れてはならないのが、成功にはルール、つまり神の法則と自然の法則があるということです。それを無視すれば、どん底に落ちてしまうでしょう。

ルールは制限的なものではなく、守ってくれるものです。あらゆる意味で豊かな人生へと導いてくれます。これから先も、これらのルールを心に留めておいてください。自分自身の境界も、他人の境界も尊重しましょう。良い種を蒔き、一生懸命働き、与えることと受け取ることのバランスを大切にしましょう。

これは、あなたの遺産を築くための基盤です。あなたの富、あなたの家族、そして世界への影響。すべては、努力、規律、そして奉仕への献身から生まれます。真の豊かさはあなたの手の届くところにあります。さあ、手に入れてください。

第5章:

灰からの復活

気がつく、あなたは底辺にいて、遠く、異質で、手の届かない人生を見つめている。あなたはいつも、人々が答えや強さを求める人だった。あなたは計画を持った女性で、少なくとも人前では決して弱音を吐かない人だった。しかし今、あなたはここにいる。想像もしなかったような、生々しく、傷つきやすく、無防備な場所に。この空間では息苦しい。まるで空気そのものが違って、重くなっているようだ。這い上がろうと試みたが、試みれば試みるほど、世界の重みが押し寄せてくるように感じる。疲れ果ててしまう、そう思わないか？

でも今、心が乱れなくなり、雑念が消え去った静かな瞬間でさえ、心の中で何かが動いている。意識の片隅で、ある疑問がくすぶっている。「どうしてこんなことになったんだろう？」自己憐憫ではない。あなたはそんなことができるほど賢い。人生は偶然の不幸の積み重ねではないことを、あなたは知っている。これは偶然ではない。意図的なものも無意識的なものも含め、一連の選択の結果だった。あなたは一步一步、この世界に足を踏み入れ、そして今、その結果に直面している。

でも、それだけじゃないでしょう？まだ時間はあります。あなたも分かっているはずです。その静かな決意こそが、重圧に押しつぶされそうな他の人々とあなたを区別するものです。あなたはどん底にいるかもしれませんが、まだ立ち上がっています。あなたの心は依然として鋭く、あなたの意志は揺るぎません。これまでも様々な困難を乗り越えてきたように、あなたはこの困難からも立ち上がることができます。ただ今回は、世間に自分の実力を証明することではありません。人々があなたに期待する役割を演じることでもありません。今回は、あなた自身が重要なのです。

この試練を乗り越えたあなたは、どんな女性になっているか想像してみてください。試練を乗り越えたあなたは、より強く、より賢く、そして真に大切なことに敏感になっているでしょう。彼女は何を知っているのでしょうか？この暗闇の中で、彼女は何を学んだのでしょうか？それが、今あなたが築き上げている姿です。あなたは打ち砕かれたように感じるかもしれませんが、精錬された剣のように、あなたは逆境の炎の中で再び形作られ、鍛え直されています。すべての傷、すべての痣、すべての涙は、あなたの物語、あなたの強さの一部となるでしょう。

どん底は終わりではなく、土台なのです。偽り、不必要なものをすべて剥ぎ取る場所です。仮面も偽りも脱ぎ捨て、自分自身と向き合う場所です。自分の限界、恐れ、弱さ、そしてもちろん、自分の力と向き合う場所です。あなたは失敗の総和以上の存在です。あなたは次の章を切り開く建築家なのです。

でもまずは正直に言おう。近道なんてない。楽な道なんてない。立ち直る道は陰しく、苦痛に満ち、過酷なものになるだろう。ほとんどの人が持ち合わせていないレベルの忍耐力が必要になる。でも、あ

なたにはそれがある。ずっとそうだった。ずっとそこにあった、静かで揺るぎない力が、あなたの中にずっと存在し、この瞬間を待っていた。それを過小評価しないで。あなたはこれまでずっと、他人が不可能だと思っていた以上のものを担える女性だった。そして今、あなたは自分自身を支えている。

一歩から始めましょう。一つの決断から。光へと向かう一歩から。階段の全体がどのように見えるかを知る必要はありません。階段は一つだけあり、あなたはそこにいる、ということだけを知れば良いのです。小さな一歩を踏み出すたびに、あなたは自分自身の一部を取り戻し、再構築し、回復します。そして、登っていくにつれて、より深い真実を発見するでしょう。それは、静寂の瞬間、自分の存在の重みを自らに感じさせた瞬間に、あなたに囁かれてきた真実です。

生き残るだけでは十分ではありません。あなたはそれを成し遂げました。最悪の事態を乗り越えました。今、あなたは繁栄しています。崩れ去った人生の灰の中から立ち上がり、何か新しいもの、揺るぎないものを築き上げます。今こそ、世界があなたに望んでいると思う自分を演じることをやめる時です。今こそ、あなたは完全に、臆することなく、そして壮大に、本当の自分になる時です。

残骸を見てください

かつての残骸を見渡してみても。恐れることはない。もう、あなたには何も力を持たない。かつてあなたが生きてきた人生、崩れ去った人生は、もう過去のもの。そして、そこから立ち上がる女性、塵が落ち着いた後に堂々と立ち上がる女性は、新たな創造物であり、あなたが耐え、再建し、克服できるという証なのだ。

元気を出してください。

確かに、やるべきことはある。しかし、その努力こそがあなたの救いとなる。それは、あなたを本来の自分へと導き、向こう側に待つ豊かな人生へと導いてくれる。日々の積み重ねが、あなたを本来あるべき女性へと近づけていく。そして、その女性とは？彼女は止められない存在だ。

あなたの旅は今始まります。

第6章:

主を呼び求めよ

今、私たちはどん底に立っています。世界が閉ざされ、希望は遠くに感じられます。どん底は単なる敗北の場ではありません。それは岐路であり、転換点です。幻想、雑念、雑音を剥ぎ取ります。人生の生々しい現実と、自らの決断の結果に直面する場所です。しかし、この瞬間は、どんなに辛いことでも、贈り物でもあります。変化が始まる場所なのです。

言わなければならない真実があります。私はそれをごまかすつもりはありません。神のいない人生は真に生きているとは言えません。一見すると良い人生に見えるかもしれませんが、心の奥底では何か大切なものが欠けています。平安、方向性、そして意味が欠けているのです。神はすべての善の源です。神なしでは、人生は瞬間の連続であり、しばしば空虚、雑念、そして後悔に満ちていま

す。しかし、神と共にいれば、すべてが変わります。神は命を与え、平安を与え、そして私たちをこの穴から引き上げることができる唯一の存在です。

神は私たちをどん底に留まるために創造されたものではありません。豊かな人生、目的と方向性、そしてもちろん喜びに満ちた人生を送るために創造されたのです。聖書は、イエスが単なる救い主ではないと教えています。イエスは良い羊飼いであり、99匹の羊を残して迷い出た一匹の羊を探し出す方です。今、あなたが苦しみと混乱の中にいる時、イエスはあなたを探しておられます。あなたがすべきことは、ただイエスに呼びかけることです。

すべてを変える決断

すべては決断から始まります。自分で掘った穴から抜け出すのは不可能だと思うかもしれませんが、神に手を伸ばそうと決心した瞬間、すべてが変わります。まるで暗い部屋で電気のスイッチを入れるようなものです。最初は光が小さく見えるかもしれませんが、一度スイッチを入れると、暗闇は消え始めます。それが、主を呼び求めるというたった一つの決断の力なのです。

神に助けを求め、神を必要としていることを認める決断をする時、想像をはるかに超える変化が始まります。これは単に悪い状況から抜け出すことではなく、新しい人になることです。聖書にはこうあります。「キリストにある人は、新しく造られた者です。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じたのです。」まさに今、ここで、あなたを待っている約束です。

しかし、ここに落とし穴があります。このような機会は永遠に続くものではありません。神の呼びかけを感じた瞬間、ためらわずに行動しましょう。今すぐ行動しましょう。待つ時間が長すぎると、神があなたのために用意してくださった新しい人生に踏み出すチャンスを逃してしまうかもしれません。その呼びかけを無視すれば、再びどん底に落ち、そこから抜け出すのがさらに困難になるでしょう。

神の助けを得て立ち上がる

「自分の力で立ち上がれ」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。確かに、その言葉には真実があります。あなたに代わって決断を下せる人は誰もいませんし、この道を歩めるのはあなただけです。しかし、ここで重要な違いがあります。あなたは一人で頑張る必要はありません。神はあなた

の足元の力であり、あなたが弱って立ち上がれないときにあなたを持ち上げてくれる手です。神はあなたが手を差し伸べるのを待っているだけではありません。今この瞬間、あなたが混乱の中にいる時に、いつでもあなたに会える準備ができています。

あなたは自分自身を救うことができますが、それは神の助けがあってこそです。神に祈り求めることによってのみ、あなたは真に成長することができます、そうすれば、他の人々もついて来るでしょう。あなたはリーダーになろうとは思っていなかったかもしれませんが、神が与えてくださる良き人生を一度味わえば、それを分かち合わずにはいられなくなるでしょう。そして、そうすることで、あなた自身の人生だけでなく、周りの人々の人生も変えていくことができるのです。

未来の謎

神と共に歩むことを選ぶとき、最も素晴らしいのは未来の神秘です。神があなたをどこへ連れて行ってくれるのか正確には分かりませんが、それが良い方向へ導いてくれると信じることができます。あなたの最大の夢が叶うかどうかは分かりませんが、それを追い求めることで、あなたはより良く、より強く、そしてこれから訪れる試練や祝福を乗り越えられる人へと成長していくでしょう。

聖書には、「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられます」とあります。あなたの務めは、神を求め、神の言葉に従って生きること良き人生を追求することです。平安、喜び、成功といった報いは、やがてやって来ます。

落とし穴を避ける

この道を歩むとき、注意深くいてください。この世は、気を散らすもの、誘惑、そしてどこにも通じない安易な道で満ちています。しかし、あなたもすでにそこに行ったことがあるでしょう？ それらの道がどこで終わるかはご存知でしょう。まさにどん底です。富、地位、快樂を追い求める一時的な高揚感に惑わされてはいけません。それらは必ず最後にはあなたを空虚にしてしまうのです。そうではなく、神の言葉にある永遠の真理にしっかりと根ざしてください。それは制限のリストではなく、真に豊かな人生を送るための導きなのです。

そして、忘れないでください。周りの人々は大切な存在です。彼らはあなたの人生の一部であるだけでなく、あなたの使命の一部なのです。神はしばしば、私たちに他者を愛するように求めることで、私たちへの愛を示されます。あなたが成長するなら、他の人々も成長できるように助けてください。忍耐強く、親切に、そして誠実に。与えれば与えるほど、物質的な豊かさだけでなく、人間関係の豊かさ、人生の目的、そして平和も、より多く受け取ることができるのです。

主を呼び求めよ

さあ、すべてが始まった場所に戻りましょう。どん底にいるあなたと、あなたを引き上げようと準備万端の神様。あなたは自分が救われるに値しないと感じているかもしれません。何度も失敗しすぎたと思うかもしれません。でも、そんなことは問題ではありません。聖書には「主の名を呼ぶ者は皆救われる」とあります。すべての人が救われるのです。あなたもその中に含まれます。

今、主に呼び求めなさい。助けを求めなさい。主は必ず答えてくださると信じなさい。なぜなら、主は必ず答えてくださるからです。そして、この場所から立ち上がる時、あなたは本来生きるはずだった人生、つまり、意味と目的と喜びに満ちた、良い人生を発見するでしょう。それは、今この瞬間のすぐ先であなたを待っています。必要なのは、最初の一步を踏み出すことです。

そして、そうしたとき、あなたはこのどん底を終わりとしてではなく、何か美しいものの始まりとして振り返るでしょう。

神と共にいれば、良き人生は常に手の届くところにあります。求めよ、そうすれば与えられる。叩け、そうすれば扉は開かれる。探し求めよ、そうすれば見いだす。

著者について

私の名前はアレクサンダー・レランド・ダルガルドノです。ロシアのカザンで、アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・リュフマノフとして生まれました。アルコール依存症の母と、私が出会う前に亡くなったマフィアの父の子です。少なくとも、そう聞かされた話です。子供の頃、暴力、セックス、アルコール依存症、そして心の傷は、子供を急速に成長させる、様々なことを目の当たりにしました。6歳の時、私は孤児院に入れられ、その後数年間、何度も引きずり回されました。

ロシアの孤児院は、私を道徳的に破綻し、証明すべきことだらけの人間へと育て上げた。幼い頃から権威を軽蔑するように教え込まれた。幼い頃からギャングスターになるように教え込まれた。ロシアの孤児院では、それが唯一の生き方だった。暴力、犯罪、そしてあらゆる反社会的なものが義務付けられていた。

幸運なことに、最悪の時期、私が永久に患者になりそうになった時、神は私を救い出してくださいました。愛情深いアメリカ人の人々が私を養子に迎え、家族、家、人生、そして帰属先を与えてくれました。彼らの愛を受け入れるのは容易ではありませんでした。私はいつもそれを疑い、抵抗してきました。10年間の反抗、6年間の投獄、悪評、そして隔離房での神の追い詰められを通して、彼らが私にどれほど優しく、神が私にどれほど優しく接してくださるかに気づいたのです。

2006年、私は姉妹たちと性的な関係を持ったことで刑務所に入りました。自分の誤った決断の重大さに気づいたのは、ずっと後になってからでした。幼い頃に教えられたことだったので、14歳というホルモンが活発になった時に、自然と無意識のうちにやってしまったのです。自分が愛されるに値しない人間だと人々に証明するため、ありとあらゆる手段を講じました。そして、その試みは成功し、私をさらなる闇へと突き落としました。

17歳で少年刑務所から出所し、SO(独身)として登録した後、私は両親のもとを離れ、自分の望む人生を歩み始めました。それから数年間、私はパーティーに興じ、女の子を追いかけて、マリファナを吸い、カウチサーフィンをしました。高校と大学の間あたりによくある普通のタイプだったと思いますが、それが私を犯罪と闇の世界に深く引きずり込んでいったのだと思います。自分を尊重できない女の子、次の一撃のためなら何でもするドラッグ中毒者、その他多くの若くて無謀な人たちと出会うにつれ、私はますます不信心に引き込まれ、最終的には犯罪へと陥っていきました。罪は、成熟すると死へと至ります。

2009年、ついにパーティ三昧の時期から抜け出し、地元のコミュニティカレッジに通い始め、イタリアンレストランで給仕の仕事も始めました。時々父と会ってコーヒーを飲み、自分の近況や近況を報告し合うようになりました。すべてが好転し始めたある日、ルームメイトが酔っ払って私への愛を告白してきたのです。彼は私がストレートなのに「金髪のビッチと浮気してる」と腹を立て始めたので、私は家を出ました。ゲイの友人や仲間はいくらいましたが、彼の強引な態度が私たちの友情を壊すきっかけとなりました。

家を出てから、またカウチサーフィンをするようになり、学校や仕事に全力を注ぐことができなくなりました。やがてホームレスになり、お金もなくなってしまいました。そんな時、都合よくロシア人の知り合いに出会い、彼の名義でホテルの部屋を手配すれば少し稼げるという話を持ちかけられました。こうして私は売春という世界に足を踏み入れたのです。

数ヶ月後、私は逮捕されました。精神的に様々な葛藤を経験しました。鬱状態になり、自殺願望も湧きました。神に私を解放してください(そうすれば、元の生活に戻れるからです)。そしてついに、私は苦々しい思いに苛まれ、復讐に囚われ、さらに怪物へと堕ちていきました。

最初の数年間は、どうすればより優れた犯罪者になれるのか、皆に意見を聞くことに費やしました。たくさん
の本を読み、犯罪に関するあらゆる知識を吸収しました。ある日、フェンスをよじ登って(なんと、食べ物と
コーヒーを手に入れるために!)、逃亡の罪で起訴される恐れがあり、隔離室に入れられてしまいました。
そこで私はイエスに出会いました。凍えるような寒さの中、イエスの温もりを感じました。板挟みになった私
に、イエスは慰めと平安を与えてくださいました。「アレックス、なぜ私から逃げているのですか？」とイエス
がおっしゃった時、私の体の細胞一つ一つがイエスの声を聞きました。

その瞬間、もう走れなくなりました。その瞬間、私は人生を神に捧げ、神に仕えることを決意しました。失敗し
ても挑戦し続け、困難に直面しても挑戦し続ける。刑期の最後の3年間で、私は神に近づいただけでなく、人
生のあらゆる面で開花しました。準学士号とグラフィックデザインの資格を取得し、簿記の基礎を学び、教員
助手として成人にGED(一般教育修了検定)を指導し(優秀な成績で卒業)、多くの礼拝で音楽を演奏し、礼
拝を導き、人々の回復を助け、「Jesus in the Can」という出版物を創刊し、アルバムを作曲し、様々なことを
綴ったノートを書きました。神と共に、私はついに自分の可能性を最大限に発揮することができたのです。
2015年7月13日、私は釈放されました。困難な時期になると覚悟していたので、神に頼りました。神はすべ
てを与えてくださいました。神のために働くよう私を召してくださったと信じています。私が神の御心を行うこ
とに心を砕いている限り、神は私の「取るに足らない」ことをすべて引き受けてくださいます。

自分の過去で判断されるのが怖い。オープンになるのも、傷つきやすいのも嫌だ。でも、今は正直な人間
だ。過去を秘密にしておくのも怖くない。もう、過去は私のアイデンティティではないから。あの溝から這い上
がった。あの悪臭は今も残っているけれど、這い上がるだけでなく、落ち込んでいる人たちに少しでもインス
ピレーションを与えられるよう、これからも努力していく。

(これは、刑務所から出所し、豊かな人生を見つける旅に出たばかりの2015年に私が書いた証言で
す)

世間体の関係上、私は「アルクス・ルクスマノフ」という仮名を使うことにしました。ALXは「豊かな人
生実験」の略で、ルクスマノフは私のロシア語名の変形で、誰も発音できませんでした。最近、父が
アルコール依存症で亡くなったことを知りました。父は、私がずっと信じていたような、亡き父を失望さ
せまいと最後の力を振り絞った、イカれたギャングではありませんでした。むしろ、私に似た正直者
で、車いじりを楽しむ人でした。もしかしたら、父は私のことを誇りに思ってくれるかもしれません。な
ぜなら、私も車いじりをし、正直さを愛するアレックス・ルクスマノフだからです。創造主と共に、シンプ
ルに生きています。

神は、ご自身が選んだ者を救いのために用いられます。神に呼び求めれば、神は決してあなたを見
捨てません。

私は彼に5つ星の評価を与えます。

フェニックスになりましょう。

言ってください、私はフェニックスです。
さあ、行きましょう。